

「十字架上の7つのことば」

マタイ 27:46 路 23:32-46 ヨハネ 19:26-30

はじめに

聖書は、主イエス・キリストが十字架上で言われた7つのことばを伝えています。今朝は、そのひとつ一つのことばから学んでみましょう。

1. イエスは母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方。ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた（ヨハネ 19:26-27）。

ここに新しい人間関係が見られます。マリヤは「愛弟子」を息子とし、愛弟子はマリヤを母とするのです。十字架のもとで、血縁関係でない、単なる人間的交わりではない新しい交わり、キリスト者の交わり（教会）が生まれるのです。マリヤには、ヤコブ、ユダ、シモン、ヨセという4人の息子と数人の娘もいました（マタイ 13:55-56）。しかし、イエス様は、彼らには母を託しませんでした。それは、彼らはまだイエスを信じておらず、十字架の下にもいなかったのです。イエス様は、かつてこう言われていました。「だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです」（マタイ 12:50）。

2. そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」（路 23:34）

キリストは、自分を十字架につけた人々の赦しを祈られました。それは、彼らが「何をしているのか自分で分からなかった」からです。人々は、祭司長や律法学者に扇動され、「自分を神である」と言うイエス様を殺すことが正義だと考えていました。十字架の意味は、後にイエス様が遣わした聖霊の助けによって初めて分かったのです。

イエス様は、彼らの赦しを神に求めました。使徒パウロはこう言っています。「私は以前には、神を冒瀆する者、迫害する者、暴力をふるう者でした。しかし、信じていないときに知らないでしたことだったので、あわれみを受けました・・・キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られたということばは真実であり、そのまま受け入れるのに値するものです。私はその罪人のかしらです」

（I ㄲㄲ 1:13-15）。

3. イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」（路 23:43）

主イエスを信じ、悔い改め、イエスを信じた者は、死後、主イエスとともにいることを教えています。十字架につけられたこの男は、その罪を赦され、神のみもとに行きました。死のまぎわにイエス様を信じた人を何人も見てきました。

「自分も死ぬ間際に信じる」と言って、勝手な生活をする人がいますが、問題なのは、その人は、生きているうちに主にお仕えするという特権と喜びを味わえません。それだけでなく、死ぬ間際に間に合うかどうか分からないのです。

4. 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、ラマ、サバクタニ。」これは(わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか) (マタイ 27:46)

イエス様は、神に見捨てられたのでしょうか。そうです。では、なぜでしょう。この瞬間に、主イエスが人間の罪を負い、罪人として神にさばかれたことを示しているのです。罪人である私たちは、神に見捨てられて当然です。しかし、イエス様は私たちの代わりに神に見捨てられたのです。このことがなければ、私たち罪人は、神に赦されることは出来ません。でも、イエス様のおかげで、罪深い私たちが今救われているのです。

5. それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。(ヨハネ 19:28)

「イエスはすべてのことが完了したのを知ると」とありますが、十字架の死を目前にして、イエス様は「神の救いの完了」を知り、「聖書が成就するために」「わたしは渇く」と言われました。「わたしは渇く」と言われたのは、詩篇 69 篇 21 節の「彼らは私の食べ物代わりに、毒を与え、わたしが渇いたときには酢を飲ませました」の引用です。ここで注意したいのは、「聖書が成就するために」です。つまり、イエス様の十字架は、偶然の出来事でも、イエス様の自作自演のパフォーマンスでもなく、聖書の預言が成就したことなのです。つまり、罪を犯した人間を救うために、神がお立てになった「救いのご計画」がここに完成したのです。

6. イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。(ヨハネ 19:30)

これは、「救いのご計画の完了宣言」です。私たちの救いは、私たち自身の努力によるものではありません。どんなに努力しても自分で自分を救えるわけがないのです。私たちの救いは、神様とイエス様がすべて計画し、完了してくださいました。私たちは、ただただ神様とイエス様に感謝して、その救いを頂けばいいのです。

7. イエスは大声で叫ばれた。「父よ。わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」

こう言って、息を引き取られた。(ルカ 23:46)

主イエスは、すべてを父なる神に委ねて息をひきとられました。イエス様は、神様がイエス様にお命じになったことは、全部、完全に行われました。それは「十字架の死」でさえもです。後のことはすべて、神様にお委ねになりました。そこには、イエス様の平安が見られます。

復活

死んだイエス様を神様は、三日目に生き返らせ、40日後、天におかえしになりました。聖書はこう語っています。「したがってイエスはいつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります」(ヘブル 7:25)。

招きのことば

天の神様は、あなたを罪から救い、本当の幸せにするために、イエス様をこの世にお遣わしになり、あなたの罪のために十字架におかけになりました。あなたがそのことを信じるなら、あなたの罪は赦され、イエス様を自分の救い主として、これからイエス様とともに生きていけるのです。今、イエス様のところにおいでなさい。イエス様はこう言われています。「わたしの所に来る者を、わたしは決して退けない」。今のまま、ありのままにイエス様のところにおいでなさい。後は、すべてイエス様がしてくださいます。イエス様があなたを変えてくださるのです。